

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	187人	社会	187人	数学	187人
	理科	187人	英語	187人		

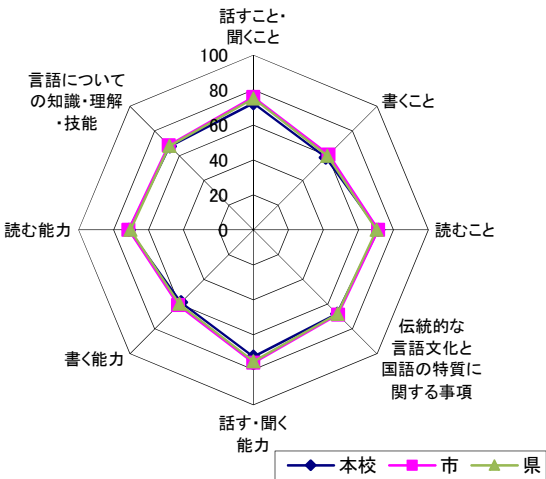
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	72.5	76.0	75.2
	書くこと	58.6	60.9	59.9
	読むこと	71.3	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.7	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	72.5	76.0	75.2
	書く能力	58.6	60.9	59.9
	読む能力	71.3	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	67.7	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

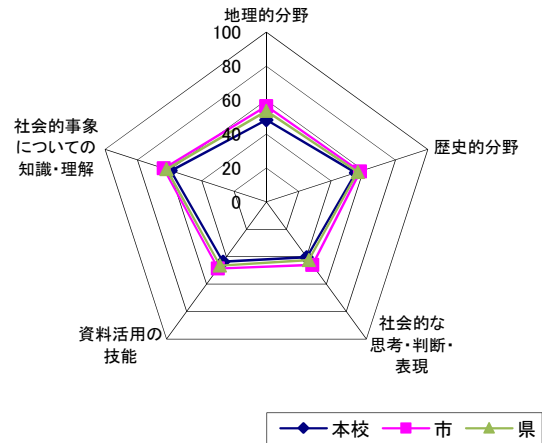
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県平均を2.7ポイント、市平均を3.5ポイント下回っている。 ○話を聞いて、自分の考えとの共通点と相違点を整理する問題では県・市の平均をわずかに上回っている。 ●分かりやすく伝えるために話の構成を考える問題では県平均を7.9ポイント下回っている。	・授業での発表や発言の場をより多く設け、発表者の話を集中して聞く態度を養う。 ・話合いの中に、互いに評価をする活動を取り入れ、より良い話合いができるような意識付けをしていく。
書くこと	平均正答率は、県平均を1.3ポイント、市平均を2.3ポイント下回っている。 ○レポートを書く問題では県平均を上回っている。 ●すべての問題で市平均を下回っている。 ●話合いの内容を参考に、提案することをまとめて書く問題では下位層の無解答率が77.5ポイントと高く、課題と捉えている。	・「書くこと」の単元を学習する際に、問いを正しく把握する時間をもつことにより、的確に書く力の向上を図る。 ・自分の考えを言葉で書く活動を増やしていくことで「書くこと」への抵抗を減らしていく。 ・初見の感想や単元末の感想など、自分の考えを言葉にする機会を増やし、表現力や語彙力の向上を目指す。
読むこと	平均正答率は、県平均を0.9ポイント上回っている。市平均は0.1ポイント下回っている。 ○特徴的な表現をふまえて物語を読む問題では、県平均を3.0ポイント、市平均を1.3ポイント上回っている。 ○文章中の空欄に入る接続語を選ぶ問題では県平均を7.3ポイント、市平均を6.9ポイント上回っている。 ●内容に関する記述問題では下位層の無解答率が52.5ポイントと高い。	・文章の内容理解を深めるために、短い要約文を書く機会を設定することによって、読み取りの力を養っていく。 ・文中の語句が指し示す言葉に注目させ、前後のつながりを見つけたり、文章の整理ができたりするように指導する。 ・説明的文章や文学的文章を丁寧に読み解きながら、自分の意見や読み取った内容を書き表す活動を計画的に設定することで、記述式問題に答えることへの抵抗を減らしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県平均を0.3ポイント、市平均では0.8ポイント下回っている。 ○「触る」の読みの正解率が100ポイントで県・市の平均を上回っている。 ●「牧草」「綿密」の書き問題が県・市の平均を下回っている。	・漢字の小テストを繰り返し行い、基礎知識の定着を図る。 ・文法や語法に関する知識は長期的な記憶が難しく、なかなか定着しないことが例年の課題であるので、折に触れて復習する機会を意図的に設ける。 ・漢字や古典など国語の知識に関する話題を授業内で取り上げ、便覧で確認するなど、国語への興味関心を高めるための方法を工夫していく。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	48.3	56.4	53.5
	歴史的分野	55.4	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	40.4	46.1	42.5
	資料活用 of 技能	43.6	48.6	46.5
	社会的事象についての知識・理解	59.3	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

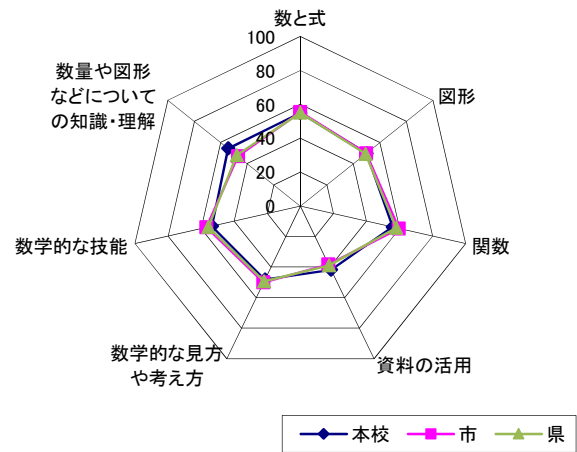
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>平均正答率は、県平均を5.2ポイント、市平均を8.1ポイント下回っている。</p> <p>○北アメリカ州に関する設問においては、県や市の平均をやや上回っている。</p> <p>●基礎・活用に関わらず、上位層と下位層の差が大きく開いている設問が多く見られる。また、大きく差が開いている設問においては、下位層において、無解答率も高くなっている。</p> <p>●世界の各地域の特色や気候帯、雨温図の読み取りが課題として挙げられる。</p> <p>●記述問題においては、下位層の正答率が0%となっている設問も存在し、また、無解答率も5～10%近くになっていた。</p>	<p>・授業開始時に、前時の内容を毎回復習することで、学習内容の定着を図る。</p> <p>・単元テストや定期テストにおいて、解き直しと反復練習を行うことで、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>・視覚教材を効果的に用いることで、概念的にとらえやすくする。</p> <p>・記述問題に関しては、授業において、資料から読み取り、自分の考えを書くような機会をできるだけ設ける。</p> <p>・予習として、教科書の内容を一度でも読んでおくように指導する。</p>
歴史的分野	<p>平均正答率は、県の平均を1.2ポイント、市の平均を2.6ポイント下回っている。</p> <p>○古代から平安時代にかけての設問の多くが県や市の平均を上回っている。</p> <p>●短答式の問題の無解答率が15～20%近くである。</p> <p>●記述式に関しては、上位層と下位層の差が大きくなっている。</p> <p>●室町時代の理解度が低いことが課題である。</p>	<p>・時代ごとのまとめにおいて、的確に時代観を押さえることで、時代ごとの特色を理解できるようにする。</p> <p>・授業の内容のポイントを的確に伝え、意識させることで、内容をより容易に理解できるようにする。</p> <p>・「なぜ」「どうして」と考える機会を授業において設けることで、過程と結果をつなげて考えられるようにする。</p> <p>・論述する機会を設けることで、文章を構築する力を身に付けさせていく。</p> <p>・写真や絵を用いて授業をすることで、概念的に物事を考えられるようにする。</p>

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	54.9	55.4	55.0
	図形	49.9	49.8	49.2
	関数	55.9	59.6	58.0
	資料の活用	41.7	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	48.1	50.0	49.3
	数学的な技能	53.5	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	54.5	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

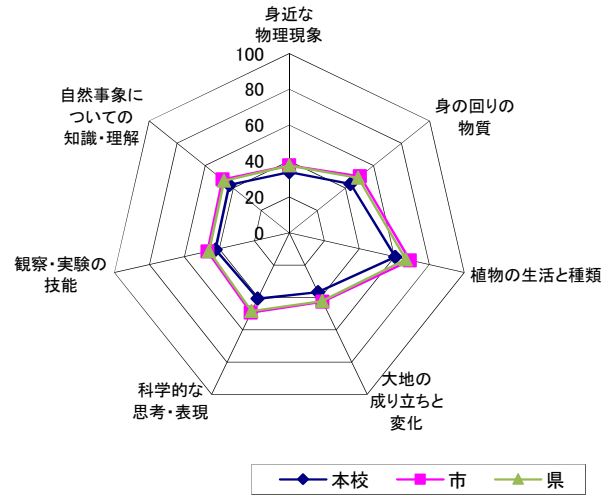
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、県平均より0.1ポイント上回っている、市平均より0.5ポイント下回っている。 ○自然数については正しく理解できている。 ○正負の数の計算の問題で、四則計算の答えを求めることができていない生徒が多い。 ●分配法則が入った計算や数量関係から方程式をつくることに課題が見られる。 ●1次方程式の計算で、分数計算の混ざった問題が苦手な生徒が多い。	・授業中や家庭学習において反復練習を行い、定着を図る。 ・方程式を立式する問題の練習を増やしていく。 ・自分の考えを言葉で書かせる活動を増やしていく。
図形	平均正答率は、県平均より0.7ポイント、市平均より0.1ポイント上回っている。 ○円柱の展開図で、側面の横の長さを求める問題についてはよく理解できている。 ○直方体にかけたひもを展開図にかき入れる作図については比較的よくできている。 ●おうぎ形の面積を求める問題に課題が見られる。	・授業中や家庭学習において反復練習を行い、定着を図る。 ・図形の展開や組み立て、おうぎ形の模型を作るなど体験的な活動を入れていく。
関数	平均正答率は、県平均より2.1ポイント、市平均より3.7ポイント下回っている。 ○与えられた座標に合う点の位置を選ぶ問題はよくできている。 ●グラフから比例の式を求めることや、面積が一定の長方形の縦と横の長さの関係を式に表す問題に課題が見られる。	・授業中や家庭学習において反復練習を行い、定着を図る。 ・表、式、グラフを関連付けて考え、理解させる。 ・グラフや文章問題を式に表す練習を増やし、立式に抵抗がないようにしていく。 ・授業中に言葉で書く活動や説明し合う活動などを意図的に増やしていく。
資料の活用	平均正答率は、県平均より2.8ポイント、市平均より3.4ポイント上回っている。 ○度数分布表から中央値が含まれる階級を答えることができる生徒は多い。 ●度数分布表からある階級の相対度数を求めることが苦手な生徒が多い。	・度数分布表を自分で作成していく活動を行い、平均値や相対度数などを自分で求められるようにしていく。 ・授業中において、言葉で書く活動や、意見交換を行う場面、説明し合う活動を意図的に増やしていく。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	33.8	37.6	37.5
	身の回りの物質	43.6	50.5	49.1
	植物の生活と種類	60.6	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	36.8	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	40.8	49.4	48.5
	観察・実験の技能	42.2	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	42.8	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

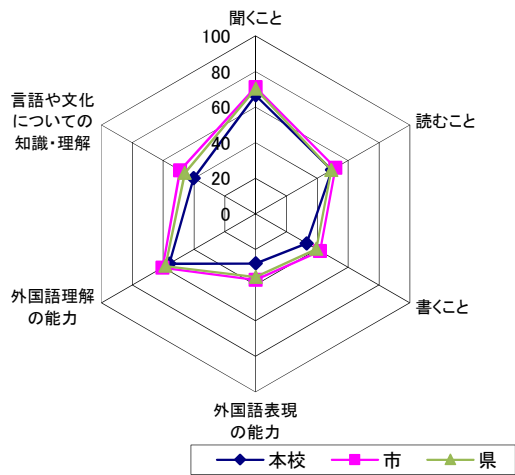
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	平均正答率は、県や市の平均を下回っている。 ○「物体が机を押す力の表し方」についての設問では、平均正答率が県や市の平均より高く、物体にはたらく重力の表し方を理解している。 ●「スクリーンに映る像の向き」についての設問では、平均正答率が県や市の平均を下回っていて、実像についての理解が十分ではない。	・「身近な物理現象」では、凸レンズやパネばかりを利用した実験を通して、生徒に体験させる。また、視覚的に直接観察できない光の進み方や力のはたらきを、実験結果の作図を通して理解できるよう、授業を工夫する。
身の回りの物質	平均正答率は、県や市の平均を下回っている。 ○「状態変化によって質量は変化しない」についての設問では、平均正答率が県や市の平均とほぼ同じで、物質の状態が変化しても物質の質量は変化しないことを理解している。 ●「析出する固体の質量」についての設問では、平均正答率が県や市の平均を下回っている。	・「身の回りの物質」では、物質の性質や状態変化の様子について実験、観察を行い、物質を粒子のモデルと関連づけて理解できるよう、授業を工夫する。
植物の生活と種類	平均正答率は、県や市の平均を下回っている。 ○「顕微鏡の適切な操作方法」についての設問では、平均正答率は県や市の平均とほぼ同じで、顕微鏡の操作方法が身についている。 ●「シダ植物は孢子でなかまをふやす」についての設問では、平均正答率が県や市の平均を下回っていて、知識の定着が十分ではない。	・「植物の生活と種類」では、身近な植物の観察、実験を通して、器具の扱い方や観察記録の取り方などが身に付くよう、授業を工夫する。 ・植物の特徴に基づいて分類することは、植物の種類を知るのに有効であることに気づかせ、植物の種類がわかるよう、授業を工夫する。
大地の成り立ちと変化	平均正答率は、県や市の平均を下回っている。 ○「示準化石として用いられる条件」についての設問では、平均正答率が県や市の平均とほぼ同じで、示準化石について理解している。 ●「地層ができた時代を推定する化石の名称」についての設問では、平均正答率が県や市の平均を下回っていて、知識の定着が十分ではない。	・「大地の成り立ちと変化」では、火山及び火山噴出物とマグマの性質を関連させて、組織の違いなど火成岩の特徴がわかるよう、授業を工夫する。 ・地表付近で見られる地学的な事物・現象として地層の重なり方や規則性を見いだせるよう、授業を工夫する。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	66.7	71.1	70.2
	読むこと	49.4	51.8	49.1
	書くこと	33.1	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	27.8	37.1	35.5
	外国語理解の能力	56.0	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	40.2	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は県平均より3.5ポイント、市平均より4.4ポイント低い。 ○イラストに合う注意喚起を表す単文をよく聞き取ることができている。イラストと英語がつながるよう何度も繰り返し口頭練習を行った成果であると考えられる。 ●When～？を聞いて、適切に応答することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・生徒たちにより多くの英語を聞く機会を与えるため、クラスルームイングリッシュを多用することや、ALTとのTTでの授業を継続していく。 ・授業において、英文を聞き英語で答える練習や、読まれる英語の中から正しい解答を選ぶ練習を増やしていく。
読むこと	平均正答率は県平均とほぼ同じ、市平均より2.4ポイント低い。 ○新聞記事を読み、適切なタイトルを正しくつけることができています。普段から、ひとまとまりの文章を読み、意味をとらえる練習を行っている成果であると考えられる。 ●対話文を読み、thereの指すものを読み取ることに課題が見られる。	・今後もまとまりのある文章を、意味をとらえながら読む練習を行っていく。また、少し長めの文章にも取り組ませ、生徒の長文への苦手意識を減らしていく。 ・英文を読む際、副詞や代名詞等が何を表すのかを1つ1つ確認しながら読み解く指導をする。
書くこと	平均正答率は県平均より6.3ポイント、市平均より8.7ポイント低い。 ○人称代名詞の目的格(them)を理解し、適切な解答を選ぶことができています。単語テストなどでくり返し目的格の確認をしたことが成果につながったと考えられる。 ●How many 名詞～？を理解し、正しい語順で書くことに課題が見られる。	・今後も単語テストなどにおいて、新しい単語を確認し、確実な知識の定着を図る。 ・語順並べ替え問題を多く取り入れ、生徒が普段から語順を意識して英作文できるよう指導する。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●【家庭での学習】の質問では、「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した生徒の割合は81.3%で、市の平均より8ポイント高い。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」と回答した生徒の割合は64.7%で、市の平均より4ポイント低い。さらに、「家で、宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」と回答した生徒の割合は50.3%で、市の平均より11ポイント低い。以上の点から、「家庭学習ノート」等の課題は消化するものの、自分に合った学習方法が見つけられず、現在、理解し定着させなければならない学習内容についても十分復習がなされていないと考えられる。今後は、生徒一人一人に適切な学習方法等をアドバイスしながら、基礎学力の向上を推進していきたい。

○【学校での様子】の質問では、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」と回答した生徒の割合は66.3%で、市の平均より6ポイント以上高い。また、「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている。」と回答した生徒の割合は89.3%で、市の平均より10ポイント高い。これらは本校が取り組んでいる学力向上に向けた全校体制での実践の成果であると考えられ、今後も更に研究を重ね生徒にわかりやすい授業の提供と、基礎学力の向上に努力したい。

○さらに、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」と回答した生徒の割合は75.9%で、市の平均より6ポイント高い。これは生徒と教師の関係が良好であることや、テスト前に実施されている学習相談の機会などを生徒が有効に活用していることが影響していると考えられる。今後も、振り返り活動から学力の定着までの支援の手立てを改善しながら、生徒自身がより積極的に授業に取り組めるような指導法やより興味を示す教材の開発に工夫したい。

○【自分自身のこと】の質問では、「自分の行動や発言に自信をもっている。」と回答した生徒の割合は55.6%で、市や県の平均より約3～4ポイント高い。これらは本校が地域において実践しているボランティア活動を通して、他者との絆や社会とのつながりを感じ取ったりする中で獲得されていく「自己有用感」の高まりであると考えられる。今後は、保護者や地域の人々と情報を交流して、生徒の良い面を見つけ、更に良い面を生かせる環境づくりと、生徒が心の安定と成就感を育めるような助言・援助に努力したい。

●【数科学習のこと】の質問では、「数学の授業内容はよくわかる。」と回答した生徒の割合は66.3%で、市の平均より5ポイント以上低い。また、「数学の学習は好きである。」と回答した生徒の割合は47.6%で、市の平均より7ポイント以上低い。ただし、「数学は将来のために大切だと思う。」と回答した生徒の割合は93%で、市の平均より約3ポイント高い。以上の点から、数学の重要性は理解しているものの分からない内容や苦手な分野がそのままになっている可能性が高いと考えられる。正答率は市の平均とほとんど同じなので、今後は生徒自身が学習内容の理解度を高めることと、テストにおいて点数的な向上を体験できるように学力の定着に向けた授業づくりを進めていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
振り返り活動と連携させた家庭学習ノート学習	帰りの会でその日の授業の振り返りを行い、帰宅後の家庭学習として、教科及び復習内容を自己決定させ、ノートに記載させてから下校させるという取組を全職員で共通理解をして実施している。	生徒質問紙調査の中で「家庭学習力」の平均スコアが一番低い。 「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」に対する肯定的回答割合は県よりも6.9ポイント、市よりも11.1ポイント下回っており、A層とD層の差は44.6ポイントである。
自分の考えをまとめ、記述する指導の充実	・授業の中で、「自分の考えを書く活動」や学びあいの活動の中で言葉で人に伝える「説明」や「話し合い」などの活動を取り入れる指導方法を研究するために、授業研究会を行う。 ・授業中の学習活動で「説明」「話し合い」「書く活動」等を意識的に設けたり、振り返りの場面で、文章表記させるなど各教科で共通理解を図り、実践している。	各教科の調査結果において、記述式問題の正答率が、県よりも3.5ポイント、市よりも4.8ポイント低い。また、短答式や記述式の問題において、無回答率が20%以上の設問数も各教科2問から8問ある。 生徒質問紙調査結果から、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」に対する肯定回答率は73.8で、県よりも11.4ポイント、市よりも6.7ポイント上回る。